

## 平成28年度アクションプラン重点事項に対する評価

### (1) 魅力向上と業務効率化

- ・富山県の歴史、文化、自然などへの理解を深めるために役立つ資料を県内各機関から広く収集します。システム更新を機に、増大する電子版行政資料の収集に取り組みます。
- ・レファレンスサービスを充実し、利用者に満足してもらえる資料や情報を提供していきます。さらに、ビジネス情報や社会生活で必要な情報に手軽に接することができるよう、雑誌スポンサー制度を充実します。
- ・高度な図書館サービスを目指し、各種職員研修会の開催などを通じて、図書館職員の資質の向上を図ります。また、実践的な研修の機会を提供して、県内図書館支援を強化します。
- ・アクションプランを毎年見直し、県立図書館の中長期のあり方を図書館内で検討します。

○富山県への理解を深めるための資料を、県内各機関から 3,271 冊収集した。今後とも出版情報を把握して、資料の網羅的な収集を心掛けていく。電子版行政資料の収集・保存にも取り組み、閲覧システムを構築した(平成 29 年 4 月稼働予定)。

○レファレンスサービスに不可欠な参考図書や基本図書の充実に努め、処理件数は微減したが、専門的で複雑な調査を処理している。また、スポンサー雑誌は 33 社、38 誌に増加した。(平成 27 年度：27 社、33 誌)

○東海北陸地区公共図書館研究集会、全国図書館大会等の研修会に職員が積極的に参加し、資質向上に努めた。また、研修に参加した職員が館内の職員に伝達講習を行うなど、収集した知識や情報の共有化を図った。

○県立図書館のあり方では今後の課題について検討した。業務効率化では、相互貸借システムを県立図書館仲介方式から借用館と貸出館との相対方式に転換し、県内利用者への資料提供向上を図った。今後はさらなる迅速化を目指して物流を検討する必要がある。

### (2) 地域情報発信と情報化

- ・地域研究やふるさと教育を推進するため、富山県に関する企画展示を定期的に行います。また、それらに関する文献リストやパスファインダーを作成し、県民に提供します。
- ・広く県民に情報発信するため、ソーシャルネットワーキングサービスを活用した広報を検討します。
- ・郷土に関するレファレンスデータを蓄積し、地域情報の共有化を図ります。
- ・図書館活用セミナーなどを実施し、図書館利用の普及啓発を行います。

○企画展示では、子どもの読書週間企画展示「親子で考えよう！環境問題」「あの頃、あのベストセラー50年史」のほか、郷土をテーマにした「富山が育んだ文学者たち」「読んでみたいふるさとの本」など、内容的にも充実したものになり、文献リストの作成は関連図

書の貸出増加に繋がった。また、北前船寄港地観光PR展示「石川×富山 北前船が運んだ文化と交流」は、石川県の図書館と連携してのユニークな展示となった。

○地域情報発信ホームページ「まいぷれ」を活用した広報のアクセス件数は、3,833件であった。また、平成28年7月からTwitterを開始し、利用案内や企画展示等の行事案内、特設文庫の紹介など、随時情報発信に努めた。ツイート数は819、フォロワー数は60人であった。

○歴史的事実の確認など、郷土に関するレファレンスデータの蓄積に努めた。今後は、蓄積したデータの活用を図り、さらなるサービスの向上に努める必要がある。

○図書館見学の実施により、書庫の状況を理解してもらうこともできた。今後とも、利用者に書庫に所蔵されている図書の利用やレファレンスサービスの活用を促すなど、図書館利用の幅を広げる取り組みが必要である。

### (3) 学校教育への支援、関係機関等との連携とネットワークの構築

- ・高志の国文学館での図書受渡サービスを継続し、利用者の利便性向上を目指します。
- ・ふるさととやま100冊の本をはじめとして、県立学校等図書館への団体貸出を推進します。
- ・公共図書館間及び高等教育機関との連携を強化し、遠隔地利用者の利便性向上や広域的な相互貸借の充実を図ります。
- ・大学図書館と連携して「富山ビギナー講座」などを開催し、図書館の魅力を発信します。
- ・県議会図書室と連携し、行政機関が求める資料や情報の提供に努めます。
- ・講演会や企画展示・雑誌スポンサー制度等を通じて、関係機関や企業との連携を図ります。
- ・図書館見学・14歳の挑戦・図書館実習等を受け入れ、図書館における学びを支援します。

○高志の国文学館での受取返却件数は、15件68冊。今後も高志の国文学館での受取返却サービスの周知に努める必要がある。

○県立高校の団体貸出登録は学校数が18校、貸出数が442冊(平成27年度18校、591冊)。今後とも様々な機会に県立高校への団体貸出サービスを周知し、利用促進を図る必要がある。

○富山大学中央図書館と連携し、富山ビギナー展示・講座を開催した。また、平成28年4月からは富山短期大学附属図書館と県立図書館間の相互貸借を開始した。

○議会図書室を通じた図書の受取返却冊数は15件22冊となり、今後も議会図書室を通じた受取返却サービスの周知に努め、行政機関に役立つ図書館情報を発信する必要がある。

○雑誌スポンサー33社から38誌の提供を受け、配架することができた。今後は、スポンサー企業をはじめ、経済界などとも連携し講演会を開催するなど、様々な分野との連携を図る必要がある。

○中学生の14歳の挑戦や、高校生・大学生等の職場体験学習(インターンシップ)など、のべ13名を受け入れた。今後とも、図書館における実習等に積極的に協力していく必要がある。

(なお、すべての数値は平成29年2月現在の数値である。)